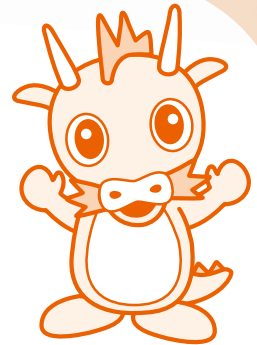


鐘の音

～ かねのね ～



vol.54
2025.10 発行



大宮の古い地名「鐘塚」。そこに建てられた「パートナーシップさいたま」から男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、そんな願いを込めて名づけました。

11月12日から11月25日(女性に対する暴力撤廃国際日)は「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間です。

この運動にちなみ、パートナーシップさいたまではDV防止セミナーを開催します。

DV防止セミナー



「今日の安心」と「明日の選択肢」を届けるために

講師 徳田 玲亜さん(弁護士、NPO法人風テラス理事長)

動画配信期間 令和7年11月4日(火)～11月28日(金)

申込み方法 令和7年10月3日(金)～11月20日(木)に

パートナーシップさいたまホームページからお申込みください。



失業や生活困窮、病気や障害、家庭の事情などで、様々な困難な問題や悩みを抱える女性が集まりやすい場所の一つである風俗の世界。

風俗で働く女性を支援する活動から見てくることをお話いただきます。

11月19日は国際男性デーです

「男性・男児の健康に目を向けジェンダー平等を促す」を趣旨として、1999年にトリニダード・トバゴで始まったとされています。

パートナーシップさいたまでは、「国際男性デー」を記念して、講座を実施します。

国際男性デー講座



「パパだって悩んでる! 男性の育児」

講師 平野 翔大さん
(一般社団法人Daddy Support協会代表理事、産業医・産婦人科医、厚生労働省 共育プロジェクト推進委員)

動画配信期間 令和7年11月14日(金)～11月28日(金)

申込み方法 令和7年10月3日(金)～11月24日(月・休)に

パートナーシップさいたまホームページからお申込みください。



ママへの支援はあるけれど、パパが悩んだ時は、どうすればいいのでしょうか？

パパも孤立させず、パパとママの健康を大切にしながら、育児に参画する方法を考えてみませんか？

おじいちゃん・おばあちゃんも、子どもを囲む家族の笑顔のために、育児の知識をバージョンアップしてみましょう！

令和7年10月時点での予定です。最新情報はさいたま市ホームページでご確認ください。

- p 2 公募型共催事業のご紹介
- p 3 講座レポート
- p 4 相談のご案内／編集後記

パートナーシップさいたまでは男女共同参画に関する図書等の閲覧や貸出を行っています。ぜひご利用ください。



相談のご案内

●相談は無料です。●秘密は厳守します。

●女性の悩み電話相談

女性の生き方、家族の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室

子ども家庭総合センター内 ☎048-711-6650

月～金／10:00～20:00 土・日・祝／10:00～16:00
(年末年始を除く)

浦和区役所 女性の相談室 ☎048-829-6129

月・火・水・金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

中央区役所 女性の相談室 ☎048-840-6132

火・金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

岩槻区役所 女性の相談室 ☎048-790-0158

月・水／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

●男性の悩み電話相談

男性の生き方、家族の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室

☎048-711-6101

第2・第4日曜日／13:00～16:00

●女性のDV電話相談

☎048-762-3880

月～金／10:00～17:00(祝日・休日・年末年始を除く)

●女性の法律相談(予約制)

女性の弁護士が相談に応じます。

実施場所 パートナーシップさいたま

予約電話☎048-642-8107

実施日時 第2水曜日／13:00～15:50(30分単位)

実施場所 男女共同参画相談室

予約電話☎048-711-5739

実施日時 第1・第3火曜日／13:00～15:50(30分単位)

●男性の法律相談(予約制)

弁護士が相談に応じます。

実施場所 パートナーシップさいたま

予約電話☎048-642-8107

実施日時 第4水曜日／16:30～19:20(30分単位)

ホームページはコチラ▶



へ編集後記へ

「講座への参加そのものが不安」そんな風に感じるときが私にもあります。なぜか周囲への恥ずかしさを感じてしまつたんですね。ですが、参加が誰かのためになると思うようにしました。迷っている方は、そんな気持ちで講座に参加して欲しいなと思います。

(福田 聖也)

先日45年ぶりに県内名栗村を訪れました。老舗懷石料理の若手女将が女子会プランを企画したと新聞に掲載されていたのがきっかけでした。名栗川は、去年他界した両親とともに幼少時代、毎年夏に訪れた思い出の地です。清流は美しく、お料理も最高においしかった。県内の名所も捨てたもんじゃないと再認識しました。

(豊田 真美)

私はパートナーシップさいたまと埼玉大学が連携した講座「地域社会の中のダイバーシティ」に参加しました。まだ高校生の感覚がありつつ大学生になった楽しみもある学生たちと話し合えることは世代間交流です。今回は初めから参加することができ学生がどのように授業を進めるのかを学びました。これからも講座に参加してボケ防止にいろいろ学びたいと考えています！

(武田 礼子)

パスポートのICチップが戸籍名なので、今も一柳先生は入国時に引き留められ、日本の実情を説明し、やっと通してもらっています。不断の努力とめげない根気と幸運(発見と目の付け処)に恵まれた先生でもされている苦労。それでもめげずに明るく生きる楽しさを教えられました。

(Mみえこ)

講座で「シングルなのに子育てしてえらいね」という言葉は「マイクログレッション(無意識のうちに特定の属性の人々を傷つけてしまう)」に当たると学びました。言われた側が「共感」ではなく「同情」に感じてしまつたそうです。自分の言葉に責任を持って使っていきたいです。

(麻生 水緒)



JR大宮駅西口 徒歩8分

自転車でお越しの場合、シーノ大宮駐輪場が無料でご利用になれます。



さいたま市

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。

郵便、電話、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.54 2025年10月1日

〈編集・発行〉

さいたま市男女共同参画推進センター(愛称: パートナーシップさいたま)

編集員/麻生水緒、武田礼子、豊田真美、福田聖也、Mみえこ

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ3階

電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801

E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆

パートナーシップさいたま

検索

10・3月発行(年2回)

この広報誌は42,000部作成し、1部当たりの印刷経費は10円です。



男女共同参画週間記念事業

「ジェンダー主流化ってなに？」

講師：萩原なつ子 さん（独立行政法人国立女性教育会館 理事長）



ジェンダー主流化とは、ジェンダー平等社会を実現するための戦略。ジェンダー平等とは、社会的な立場における平

等。意思決定のプロセスにどれだけ女性がいるのか。日本の歴史を振り返り国連の女性差別撤廃条約の話を交え日本における女性差別の問題点をどのように解決していけばよいのか、という分かりやすいお話だった。

憲法の話では明治憲法は男尊女卑、家制度は男性がすべての権限を握っていた。戦後、昭和憲法では女性の権利と地位が守られるようになったが、長年の慣習や思い込みにより生活の中で女性の権利と地位は完全には守られていない。どうしたら変えて行けるか。人口減少で消滅可能性都市となった東京都豊島区の「豊島F1会議」を事例としてあげている。

〈参加〉でなく〈参画〉のお話では〈参加〉は楽しそうな集まりがあるから聞きに行こう。〈参画〉は何かイベントに初めから参加して意見を出し合い形にする、自分のものにする。豊島区はどうしたら住みやすい街になるかを100人の女性と区の職員・企業などで話し合い、意見をまとめて区長に報告した。残念ながら子供の数は増えなかったが若い住人が増え、会議に参加し、自分の問題として捉えるようになった方が区議に3人当選したそうだ。

社会も企業も変わってきている。今まで女性古い考えに縛られ自分の事を考えてこなかった。これからは1人の人間としての自分の権利を多くの人と求めていくのも方法なのではと感じた。

（武田 礼子）

女性活躍を応援する講座

「理工系分野の女性研究者として伝えたいこと」

講師：一柳優子 さん（横浜国立大学大学院工学研究院 知的構造の創生部門 教授）

一柳先生は声が明るくパワフルな女性です。大好きな研究と教育をしたくて、大学でナノ磁気微粒子の特性を利用し、ガン治療やMRI造影剤への応用等を研究しています。

研究職は体力と精神力を大変必要とする仕事ですが、業績を積み重ね、論文を内外に発表することで「自分の名前が生きていること」ができる素晴らしい仕事があります。研究は自己満足で終わること無く結果を発信していかねばなりません。海外の学会参加で世界の研究者と繋がり、情報交換したり助け合ったり、時にはノーベル賞受賞者との交流で刺激を受けられることは大きなポイントです。動画中では自然体でパワー溢れる女性研究者が多く紹介され、思い思いに楽しんでいる様子が伺えます。

世界に羽ばたく先生だからこそ体験する日本の不都合にぶち当たります。それは、功績が認められ、研究費を得る機会があった時のこと。交付申請は戸籍名でしか許されず、条件を満たさねば大学全体への交付も得られない事態に陥りました。そこで、教員達の賛同署名を得るべく奔走した時、工学部の仲間から「社会主義だ。」「研究は進んでいるの?」という圧力を受けました。尽力の甲斐あってその後、通称名で通るよう道が開きましたが、実情はまだまだ。一柳先生は現在も選択的夫婦別姓を進めるべく頑張っています。多くの女性が働く今、仕事上の便利さやアイデンティティ等のために姓を選択できる自由。勿論相手の姓を選ぶことも自由。沢山の女性が助けられることでしょ

う。

（Mみえこ）



傷ついた心のケア講座（オンデマンド）

「身体的暴力・性暴力」

講師：西山さつき さん（NPO法人レジリエンス 代表）



オンデマンド「傷ついた心のケア講座」（月1回通年講座）の講師はNPO法人レジリエンスの代表、西山さつきさん。

同団体は数多くのDV等の体験者のケアをしてきたのでアドバイスが的確だ。トラウマ（心の傷つき）がなくなることとは難しく、それとイかに付き合っていくかということが重要だと先生はこの講座で語る。

6月のテーマは「身体的暴力・性暴力」。まず暴力の種類を挙げながら、暴力がなくなっても解決せずに苦しさが続いているのがトラウマの特徴だと説明された。そして「トラウマを抱えたことは自己責任ではないが、ケアに向き合うのは自己責任。社会の中でトラウマケアに向き合える環境を増やすことが大切」と強調された。暴力の中でも根深いトラウマを残す性暴力。トラウマがあると自分を守るためにそれを避けようとするため、周囲に神経を使い、自分の感情にアクセスしにくくなる。トラウマを一人で抱えてしまつて傷を深めるのではなく、自分にあったトラウマの癒し方を見つけていくことが大切。そのためのポイントの1つが「自分は何をしていると心地よいか」を探って実践してみる。例えば、温かいものを飲む、銭湯に行くなど、先生曰く「暴力による影響を癒すレシピ」を作っておき自分自身へのケアに集中できる時間を作ることを講座の中で勧められた。

家族や知人が性被害にあっているかもしれないし、これからあうかもしれない。この問題は社会全体で認知する必要があると思う。

（麻生 水緒）

AKJ.Commu主催 レジリエンス講座「見方が変わればあなたが変わる」不安にならない技術

「妻から『あなた本当に幸せ?』と聞かれたのがきっかけでした」

そう語るのは、講師の岸克彦さん。工学系の博士号を取得した理系出身で、徹底したロジックで結果を出してきた人物です。

「でも、気づいたら孤独になっていたんです。だから心理学を学びました」と続けます。

この講座では、そんな岸さんが自身の知識と経験をもとに、不安に振り回されずに生きる方法を伝えています。

5月24日に開催された講座には5名の参加者が集まり、それぞれが不安を感じる場面を口にした。

それに対し岸さんは「自分がコントロールできることに目を向けるのが、不安をなくすポイントです」とアドバイスを送ります。

さらに、岸さんは自身の家庭でのエピソードも紹介しながら、アプローチを変えることの重要性について説きました。

「これまで娘に対してあれこれと口を出していた妻が、私の話を聞いて『どうしてやらないの?』と叱るのではなく、『試してみたら?』と促す言葉に変えていったんです」

言葉のアプローチが変わったことで、娘さんも次第に心を開くようになり、こう本音を打ち明けました。

「転ばぬ先の杖が多すぎて、身動きが取れなかったよ」

そんな娘さんの変化をきっかけに、家庭の空気も変化したといいます。

岸さんは講座の最後にこう語ってくれました。

「私は私です、と言える覚悟を持つのが大切。あなたの不安が軽くなる。そんな講座でした。」

(福田 聖也)



NGO世界女性開発機構 「変革の旗手たる男性たち」とすすめるジェンダー平等講座

「経済分野」におけるジェンダー

NGO世界女性開発機構の石井さやかさんを講師とする講座に参加した。

講座前半は、国内外各種統計データの解説。世界経済フォーラムが毎年発表するジェンダーギャップ指数で日本は118位と、先進諸国・周辺アジア各国と比較しても大幅な遅れをとった状態が続く。この20年で女性の就業者数は、着実に上昇するも同一職種における賃金格差は依然あり、政府や企業努力にも関わらず、令和2年の総務省調査では女性管理職比率は13.3%と停滞している。

なぜ、日本の変化のスピードは遅いのか。日本の性別役割分業の歴史は意外にも浅く、戦後日本が大きな経済成長を遂げる中で「女は家」の価値観が定着した。それが社会全体として効率良く、利になつていったのだ。

講義後半は、ジェンダーが女性の問題として誤解されて来たと本質に切り込む。男性の立場からすればむしろ損害として捉えられていたと言う。それは、もはや時代遅れだろう。男女平等の実現は、1. パワーバランスの分散化、2. 潜在能力の発揮、3. 生産性向上、4. 経営危機の回避とメリットが大きいと講師は説明する。私個人も女性管理職として、男性中心の予定調和的議論に物申し、利害関係に忖度しない、あるべき意思決定に寄与できていると自負する。

幅広い世代の人たちが男女

平等に関心を持ち、自身を振り返る行為は価値がある。年齢、性別に関係なくジェンダー

平等について市民が語り合っ。そんな草の根活動がいつしか人々の意識に変化を促すものと信じたい。

(豊田 真美)

WWD

Women change the world
for our best society

さいたま市男女共同参画推進センターと、団体が協働で実施することで、地域における多様な課題の解決につなげていくことを目的として、公募型共催事業を実施しています。

今年度は上記2団体も含め、全部で6団体が実施中です！

①蒼い空の会

あおいそら こころのケア講座

②AKJ.Commu

レジリエンス講座「見方が変わればあなたが変わる」

③さいたま市女性学研究会

ワークショップ「ブックトーク」／
図書情報紙「ゆい」作成

④TG+NBの会

トランスジェンダー・Xジェンダー（ノンバイナリー）
当事者ミーティング

⑤Dulces

女性の社会活動を応援する、託児付きワークショップ

⑥NGO世界女性開発機構

「変革の旗手たる男性たち」とすすめるジェンダー
平等講座

詳しくはホームページをご覧ください

